令和4年度 専門研修（短期研修）講座
高等学校公開授業講座！授業をみて学ぶ！

体育の授業評価，授業改善について

福岡教育大学　本多 壮太郎

R4.10.13（Thu）於 福岡県立久留米高等学校

学校番号

保健体育科（体育・保健）学習指導案
学 校 名　福岡県立○○高等学校
指 導 者　職名　　氏名
実施日時　令和○○年○○月○○日○曜日○時限
実施学級　第○学年○組○○名
実施場所　○○○○

1　単元名
科目「保健」の場合・・・・内容のまとまり　「単元」
（例）（1）現代社会と健康　　「（ア）健康の考え方」
内容のまとまり　単元
科目「体育」の場合・・・・領域　「型、種目」または「種目」
（例）E　球技　「イ　ネット型　バレーボール」
領域　型　種目

2　単元設定の理由
（1）単元観
（ねらい、運動の特性、指導内容、教材の分析、教材の価値、指導内容の学年系統、学習指導要領の指導内容との関連等）

（2）生徒観
（知識、興味・関心、学習内容・方法に関する経験や習熟度、アンケートや診断テストの活用等）
※否定だけにならないように生徒の良さと課題の両面から記述する。

（3）指導観
（目指す生徒像、ねらいを達成するための単元全体を通す活動、各段階〔※導入・展開・終末〕における手立て、学習形態〔一斉、グループ、個別など〕、主体的・対話的で深い学びの視点、言語活動の充実やICTの活用等）
※（例）導入では～をねらうものである。そのため～の活動を行わせる。展開では～。まとめでは～。

3　単元指導目標（到達目標）
○【知識及び技能】
（例）（～を理解できるようにするとともに、～ができるようにする。）

○【思考力・判断力・表現力等】
（例）（～の課題を発見し、～を工夫するとともに、～を他者に伝えることができるようにする。）

○【学びに向かう力・人間性等】
（例）（～に自主的（主体的）に取り組むとともに、～をしようとすること、～をしようとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。）

福岡県体育研究所
体研データベース，
学習指導案作成のポイント
高等学校：新学習指導要領
より

2　単元設定の理由
（1）単元観
（ねらい、運動の特性、指導内容、教材の分析、教材の価値、指導内容の学年系統、学習指導要領の指導内容との関連等）

（2）生徒観
（知識、興味・関心、学習内容・方法に関する経験や習熟度、アンケートや診断テストの活用等）
※否定だけにならないように生徒の良さと課題の両面から記述する。

（3）指導観
（目指す生徒像、ねらいを達成するための単元全体を通す活動、各段階〔※導入・展開・終末〕における手立て、学習形態〔一斉、グループ、個別など〕、主体的・対話的で深い学びの視点、言語活動の充実やICTの活用等）
※（例）導入では～をねらうものである。そのため～の活動を行わせる。展開では～。まとめでは～。

断続研修では「これまでの自身の授業実践についての振り返り」も入れるよう提案しています

4　単元の評価規準（例）

	知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	○知識 保　健 ※学習指導要領解説各単元の記載内容参照 体　育 ※学習指導要領解説〈例示〉参照（例示より抜粋） ・技(術)(など)の名称や行い方 ・体力の高め方 ・運動観察（課題解決）の方法 ・競技会（試合、交流や発表）の仕方（行い方） ・運動を継続するための方法 【文末の表現】 ～について学習した具体例を挙げている。 ～について言ったり書き出したりしている。	○技能 保　健 ※学習指導要領解説の記載内容参照 （2）「安全な社会生活」 （イ）応急手当 ㋑日常的な応急手当 ㋒心肺蘇生法　　のみ該当 体　育 ※学習指導要領解説〈例示〉参照 ※【E　球技】の場合、必ず「ボール操作（ボールや用具の操作・バット操作やボール操作）」と「ボールを持たないときの動き」の両方とも記載する 【文末の表現】 ～できる。 〔保健〕～について言ったり書き出したりしているとともに、～できる。	保　健 ※学習指導要領解説〈例示〉参照 体　育 ※学習指導要領解説〈例示〉参照 ※思考力・判断力・表現力等は「運動に関する」「体力、健康・安全に関する」「運動実践につながる態度に関する」「生涯スポーツの実践に関する」ものから、領域の特性に応じ、例を重点化して示している。 【文末の表現】 ～している。	保　健 ※学習指導要領解説の記載内容参照 体　育 ※学習指導要領解説〈例示〉参照 ・愛好的態度 ・公正 ・協力 ・責任 ・参画 ・共生 ・健康・安全 【文末の表現】 ～しようとしている。 ※健康・安全は「～している。」

評価規準は、その単元で育てたい資質・能力を焦点化し、それぞれ①～②～③～と記載する。
※設定する数に制限はないが、年間を通してバランスよく指導・評価できるように留意する。

【３観点における指導のポイントと評価規準の設定例】

（科目「体育」E　球技　イ　ネット型　バレーボール〔入学年次の次の年次以降：２年生〕を例として取り上げる）

○「知識及び技能」⇒評価の観点「知識・技能」

（ポイント）※学習指導要領解説より
知識は、体の動かし方や用具の操作などの「具体的な知識」、運動の実践や生涯スポーツにつながる概念や法則などの「汎用的な知識」で示されている。それらの知識の往還を図ることや体育理論との関連を図ることが重要である。また、知識を基に技能を身に付けたり、技能を身に付けることで知識の理解を深めるなど、知識と技能を関連させて学習できるようにすることが大切である。

例　示（知識）：球技の型や種目によって必要な体力要素があり、その型や種目の技能に関連させながら体力を高めることができること。
↓
評価規準（知識）：球技の型や種目によって必要な体力要素があり、その型や種目の技能に関連させながら体力を高めることができることについて、学習した具体例を挙げている。
例　示（技能）：変化のあるサーブに対応して、面を合わせてレシーブすること。
↓
評価規準（技能）：変化のあるサーブに対応して、面を合わせてレシーブすることができる。

目標に準拠した評価
指導と評価の一体化

○「思考力・判断力・表現力等」⇒評価の観点「思考・判断・表現」

（ポイント）※学習指導要領解説より
指導に際しては、体の動かし方や協力の仕方などの「どのように」行うのかの具体的な知識だけではなく、原理や原則、意義などの「何のために」行うのかといった汎用的な知識を関連させて理解させた上で、学習場面に適用したり応用したりすることが大切である。

例　示：練習やゲームの場面で、チームや自己の危険を回避するための活動の仕方を提案すること。
↓
評価規準：練習やゲームの場面で、チームや自己の危険を回避するための活動の仕方を提案している。

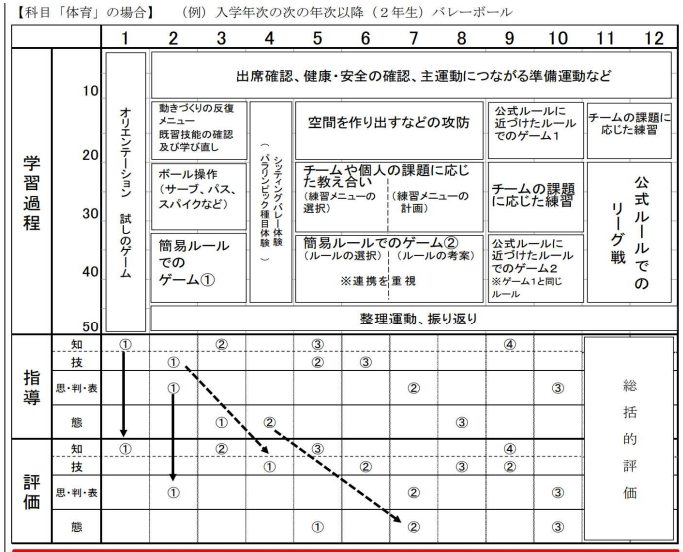
○「学びに向かう力、人間性等」⇒評価の観点「主体的に学習に取り組む態度」
※人間性等については、「評定」には含まれないが、「個人内評価」として実施すること。

（ポイント）※学習指導要領解説より
各領域において「愛好的態度」及び「健康・安全」は共通の事項とし、「公正」「協力」「責任」「参画」「共生」の中から各領域で取り上げることが効果的な指導内容を重点化して示している。指導に際しては、協力の場面や行動の仕方の例などの具体的な知識と、なぜ協力するのかといった意義などの汎用的な知識を関連させて指導することで、生徒自身の自主性や主体性を促していくことが大切である。

例　示：フェアなプレイを大切にしようとすること。
↓
評価規準：フェアなプレイを大切にしようとしている。

※学習指導要領解説に記載されている〈例示〉を参考に、学校や生徒の実態に応じた評価規準を作成していくことが重要となる。

【科目「体育」の場合】　（例）入学年次の次の年次以降（２年生）バレーボール



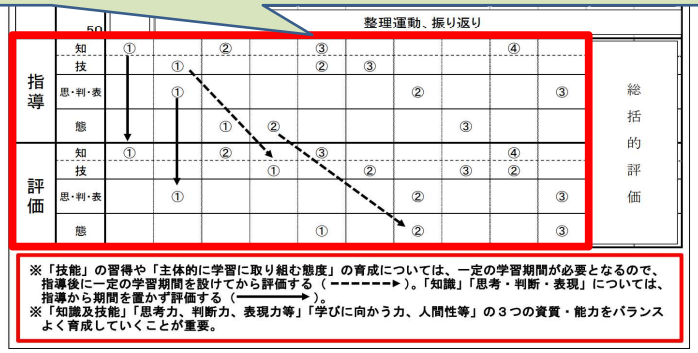
※「技能」の習得や「主体的に学習に取り組む態度」の育成については、一定の学習期間が必要となるので、指導後に一定の学習期間を設けてから評価する（－－－－－－▶）。「知識」「思考・判断・表現」については、指導から期間を置かず評価する（━━━━▶）。
※「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の３つの資質・能力をバランスよく育成していくことが重要。

【科目「体育」の場合】　（例）入学年次の次の年次以降（２年生）バレーボール

育てている期間（習得，育成，涵養）

見立て，見通す期間（アセスメント）

・どのような状況であると判断されるか
・どうしてそうなのか
・どのように改善を図っていくか



※「技能」の習得や「主体的に学習に取り組む態度」の育成については、一定の学習期間が必要となるので、指導後に一定の学習期間を設けてから評価する（－－－－－－▶）。「知識」「思考・判断・表現」については、指導から期間を置かず評価する（━━━━▶）。
※「知識及技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の３つの資質・能力をバランスよく育成していくことが重要。

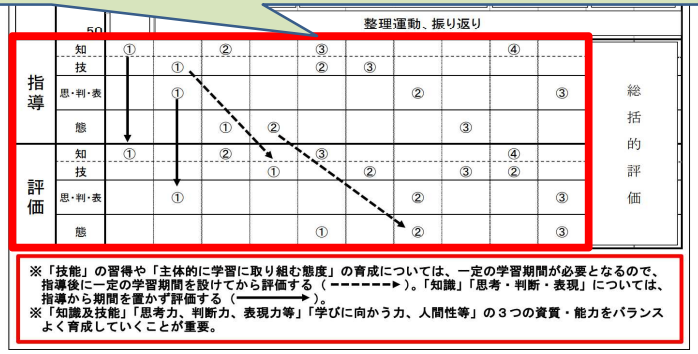
児童・生徒の記述や発言，回答，動き，表情などからフィードバックをもらい，必要に応じて改善を図るための評価（アセスメント）

C 努力を要する → B おおむね満足 → A 十分満足 →

・計画に基づいた具体的手立てを
・計画の見直しを

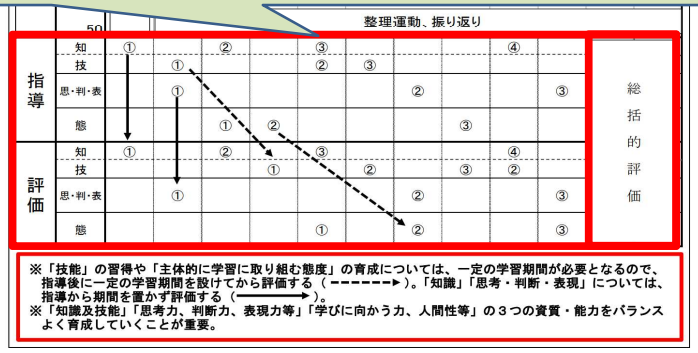
・計画の確認を
・必要やアイデアに応じて修正を

・個別の課題を
・必要やアイデアに応じて修正を



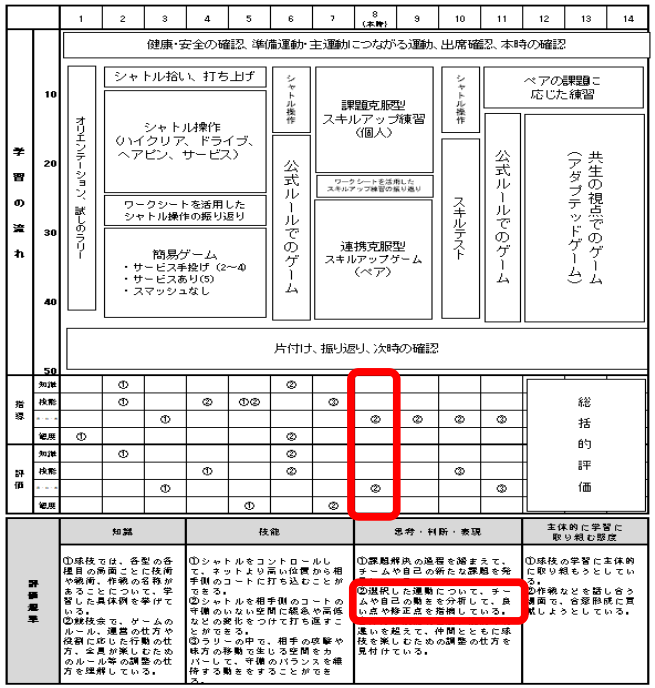
※「技能」の習得や「主体的に学習に取り組む態度」の育成については、一定の学習期間が必要となるので、指導後に一定の学習期間を設けてから評価する（－－－－－－▶）。「知識」「思考・判断・表現」については、指導から期間を置かず評価する（━━━━▶）。
※「知識及技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の３つの資質・能力をバランスよく育成していくことが重要。

年間計画，重点化により目標，内容，評価の観点の精選
＋
１単位時間の評価機会も精選
＋
ICTの活用で評価材料を効果・効率的に収集するとともに根拠を備えた評価を



※「技能」の習得や「主体的に学習に取り組む態度」の育成については、一定の学習期間が必要となるので、指導後に一定の学習期間を設けてから評価する（－－－－－－▶）。「知識」「思考・判断・表現」については、指導から期間を置かず評価する（━━━━▶）。
※「知識及技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の３つの資質・能力をバランスよく育成していくことが重要。

本時の「見取り」に関する協議



知識の習得・活用について

「何を，どのように学び，何ができるようになるか」
「知識」を軸にしてみます。

中学校の場合

知識と技能

知識の理解を基に運動の技能を身に付けたり，運動の技能を身に付けることで一層知識を深めたりするなど，知識と技能を関連させて学習させること

知識と思考力，判断力，表現力等

習得した知識を用いて仲間に課題や出来映えを伝える（体つくり運動の場合は「解決の方法を伝える」）など，学習者が習得した知識を基に解決が可能な課題の提示の仕方を工夫すること

知識と学びに向かう力，人間性等

学習者自身が公正，協力，責任，参画，共生，健康・安全等に関する内容を「理解し，取り組めるようにする」ことが指導の際に大切である

●意欲，思考力，運動の技能などの源

●体の動かし方や用具の操作方法などの具体的な知識を理解することにとどまらず，運動の実践及び生涯スポーツにつながる概念や法則などの汎用的な知識 等の定着

知識①

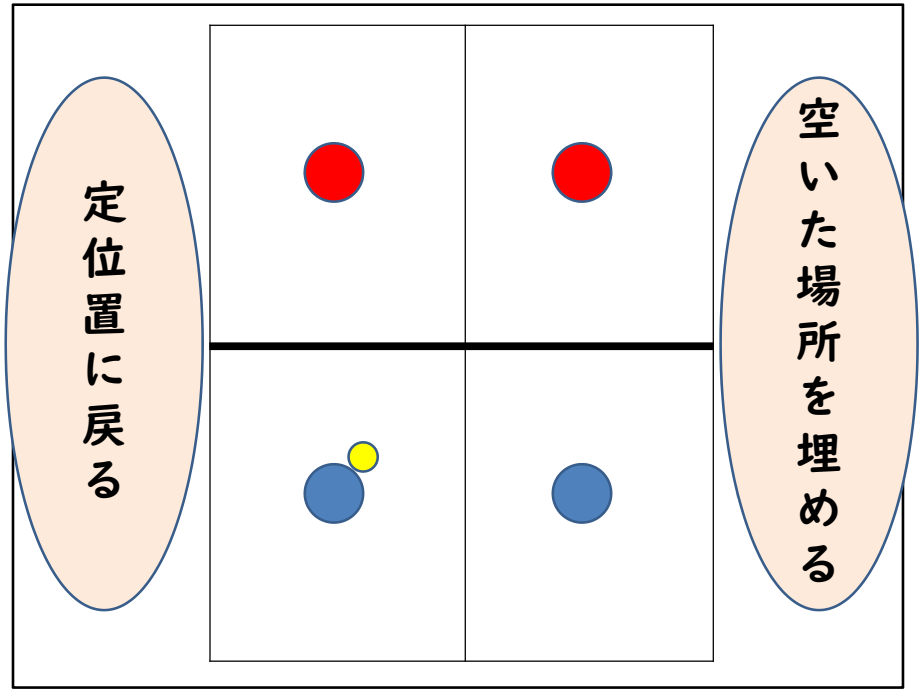
球技では，各型の各種目の局面ごとに技術や戦術，作戦の名称があり，それぞれの技術，戦術，作戦には，攻防の向上につながる重要な動きのポイントや安全で合理的，計画的な練習の方法があること

知識①

球技では，各型の各種目の局面ごとに技術や戦術，作戦の名称があり，
（具体的，個別の知識）
それぞれの技術，戦術，作戦には，攻防の向上につながる重要な動きのポイントや
（具体的，個別の知識→汎用的な知識）
安全で合理的，計画的な練習の方法があること
（方法的な知識）

技能①，②，③へ
思考・判断・表現①，②へ

汎用的な知識へ



知識②

競技会で，ゲームのルール，運営の仕方や役割に応じた行動の仕方，全員が楽しむためのルール等の調整の仕方があること

知識②

競技会で，ゲームのルール，運営の仕方や役割に応じた行動の仕方，全員が楽しむためのルール等の調整の仕方があること
（授業や単元内の具体的で，個別的なルールや運営，役割に応じた行動の仕方，ルール等の調整方法の知識）

思考・判断・表現③へ
主体的に学習に取り組む態度②へ

汎用的な知識へ

図１　本時例における第１学年マット運動の「知識及び技能」の具体的指導事項

○知識
①器械運動には多くの「技」があり，これらの技に挑戦し，その技ができる楽しさや喜びを味わうことができること。

②技の行い方は技の課題を解決するための合理的な動き方のポイントがあること。

【技（技能）に関連した知識の整理の例】

	汎用的な知識	具体的な知識	方法的な知識
	運動を支える原理，原則，意義 「何のために」行うのか	運動の行い方のポイント・コツ 「どのように」行うのか	課題解決の仕方，運動観察の仕方 「どんな方法で」行うのか（改善できるのか）
接転技群	・順次接触するため ・回転力を高めるため	・おへそを見る ・あごを引く など	・ゆりかご ・大きなゆりかご ・坂道を利用する　など
ほん転技群	・支えるため，突き放すため ・回転力を高めるため ・起き上がりやすくするため	・タイミングよくそる ・大きく足を振り上げる ・手と足の距離を近づける など	・かえるの足うち ・腕立て横跳び越し ・大きなゆりかごからのブリッジ ・段差の利用　など
平均立ち技群	・バランスを保つため ・崩れを復元するため	・視点を意識する ・重心を意識する など	・背支持倒立 ・三角形の印をつける など

○技能
①体をマットに順々に接触させて回転するための動き方や回転力を高めるための動き方で，基本的な技の一連の動きを滑らかにして回ること。

技群	グループ	基本的な技（主に小5・6で例示）
接転	前転	前転 → 開脚前転 → 補助倒立前転
	後転	後転 → 開脚後転

②全身を支えたり突き放したりするための着手の仕方，回転力を高めるための動き方，起き上がりやすくするための動き方で，基本的な技の一連の動きを滑らかにして回転すること。

技群	グループ	基本的な技（主に小5・6で例示）
ほん転	倒立回転・倒立回転跳び	側方倒立回転 倒立ブリッジ
	はねおき	頭はねおき

③バランスよく姿勢を保つための力の入れ方，バランスの崩れを復元させるための動き方で，基本的な技の一連の動きを滑らかにして静止すること。

技群	グループ	基本的な技（主に小5・6で例示）
平均立ち	片足平均立ち	片足平均立ち
	倒立	頭倒立 補助倒立

（１）学習カードの工夫

次の学習カードは，評価規準（知識①）の記述状況と，評価規準（知識②）：「技の行い方は技の課題を解決するための合理的な動き方のポイントがあることについて，学習した具体例を挙げている」を評価する学習カードの例を示している。

①器械運動の楽しさについて

【器械運動の楽しさとは何だろう？】（１時間目）
技ができるようになること。
いろいろな技に挑戦すること。
技がきれいにできるようになること。

特性

【技の練習や習得を通じて気が付いた楽しさや喜びを、１時間目の記載に加えて書いてみよう】（5時間目）
器械運動には接転技群やほん転技群、平均立ち技群などいろいろな技があって、自分に合った技で挑戦できる。

【器械運動の楽しさをまとめてみよう】（8時間目）

②学習した技について（発表する技に〇をつけておこう）

系	技群	共通する動きのポイント	挑戦した技	技に応じたポイントやコツを書こう（授業の途中で気が付いたことも加えて記入しよう）	つまずいたときにどうしたらよいかメモを取ろう（気が付いたときにその理由も書いてみよう）	自己評価
回転系	接転技群	・体を順番にマットにつけること ・回転力をあげること	前転	おへそを見る 手を遠くに着く	ゆりかごをする （体を順番につけるため）	1・2・3・(4)・5
			開脚前転	手を遠くについて脚を振り上げる またの下に手をついて前かがみになる	坂道を作って行う （回転力をつけるため）	1・2・3・(4)・5
			後転	背中を丸める 脚を勢いよく頭の上に振り上げる	大きなゆりかご （勢いをつけて体を順番につけるため）	1・2・(3)・4・5
	ほん転技群					1・2・3・4・5
						1・2・3・4・5
						1・2・3・4・5
巧技系	平均立ち群					1・2・3・4・5
						1・2・3・4・5
						1・2・3・4・5

汎用的な知識　具体的な知識　方法的な知識

生徒が記述した内容が不十分で提出された場合，コメントを記入して返却し，後日内容が追記された場合は，形成的に評価を行う。

イ　知識②の実現状況を判断する目安と具体例

評価規準（知識②）：技の行い方は技の課題を解決するための合理的な動き方のポイントがあることについて，学習した具体例を挙げている。

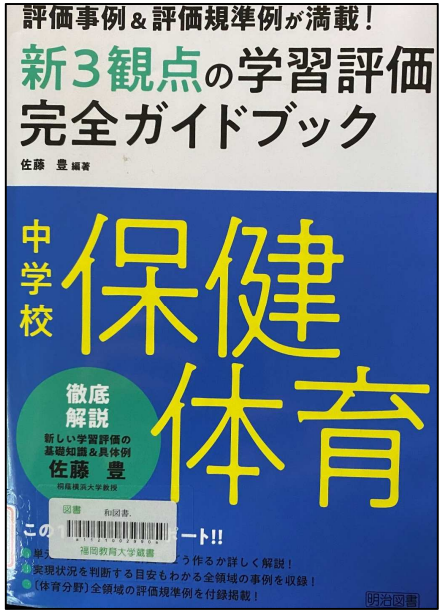
実現状況	判断の目安	具体例（生徒の回答例）
十分満足（A）	挑戦した技のポイントやコツなどの具体的な知識と汎用的な知識が関連付けて記述されている。	・おへそを見ることで，体が丸まり，マットに後頭部→背中→腰の順番に着くことができる。 ・手を遠くに着くことで回転力が上がる。
おおむね満足（B）	挑戦した技のポイントやコツなどの具体的な知識を記述している。	・おへそを見る。 ・手を遠くに着く。
努力を要する（C）	挑戦した技のポイントやコツが記述されていない。	・頑張って回る。 ・気合を入れる。

・倒立前転の技能の確認	・**倒立前転のポイントとして、下肢の振り上げ、肩から背中を徐々に接地すること、顎を引き回転力を高めること**に気付かせる。
・側方倒立回転の技能の確認	・**側方倒立回転のポイントとして、着手の仕方、下肢の振り上げ、下肢を引き付け回転力を上げること**に気付かせる。
・開脚後転の技能の確認	・**開脚後転のポイントとして臀部から背中を徐々に接地すること、起き上がりやすくするための着手、下肢を開くタイミング**に気付かせる。
4　気づいた技のポイントについて話し合う。	・グループごとに気付いた技のポイントを発表し合う。 ・３つの技に共通するポイントについて考えさせる。 ・**回転系の技のポイントとして、順序接地することと回転力を上げるための体の使い方が滑らかな技の実施につながることに気付かせる。**
【10の視点】⑤説明・発表の機会の充実	話合いをもとに、回転系の技のポイントとしてまとめることで、汎用的な知識となり、技の出来栄えを高めたり、他の技へ応用したりすることも可能になります。 （ポイント）知識と技能を関連付けることで、より深い学びとなっているか。
5　技のポイントを踏まえ、他の技の練習を行う。	・お互いに技を見合いながら、課題や出来栄えを伝え合わせる。 ・技のポイントを整理して掲示し、課題や出来栄えを伝える際の視点を持たせる。

83

鳥取県教育委員会（https://www.pref.tottori.lg.jp/secure/295490/taiiku.pdf）

参考図書



中学校第2学年 水泳 判断基準の例（宮田，2021：71を一部修正）

知識（成り立ち，高まる体力，技術の名称・行い方のポイント）

A　教師が伝えた事項や共有した情報に自身の言葉や経験と関連した記載が見られ，汎用性のある解釈がなされている。

B　教師の伝えた事項や共有した情報が概ね記載されている。

C　教師の伝えた事項や共有した情報が部分的な記載又は，誤解した解釈となっている。

→教師からの再度の発問と手立て

思考・判断・表現（解決の方法の選択）

A　自己の課題に応じて，練習方法を組み合わせたり新たに考えたりしている。

B　提供された練習方法の中から，自己の課題に応じて，泳法の習得に適した練習方法を選んでいる。

C　自己の課題がわからなかったり，自己の課題に適した練習方法を選ぶことができなかったりしている。

→動きの局面に応じたポイントと課題を提供した資料等で再度確認してはっきりとさせ，それに対応した練習方法を確認させる。

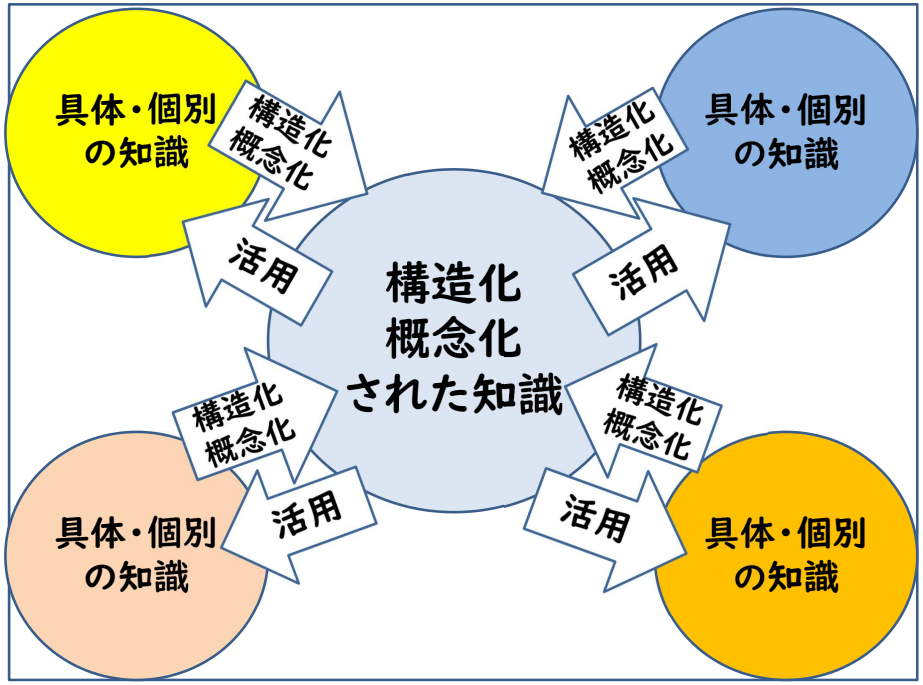
主体的に学習に取り組む態度（共生）

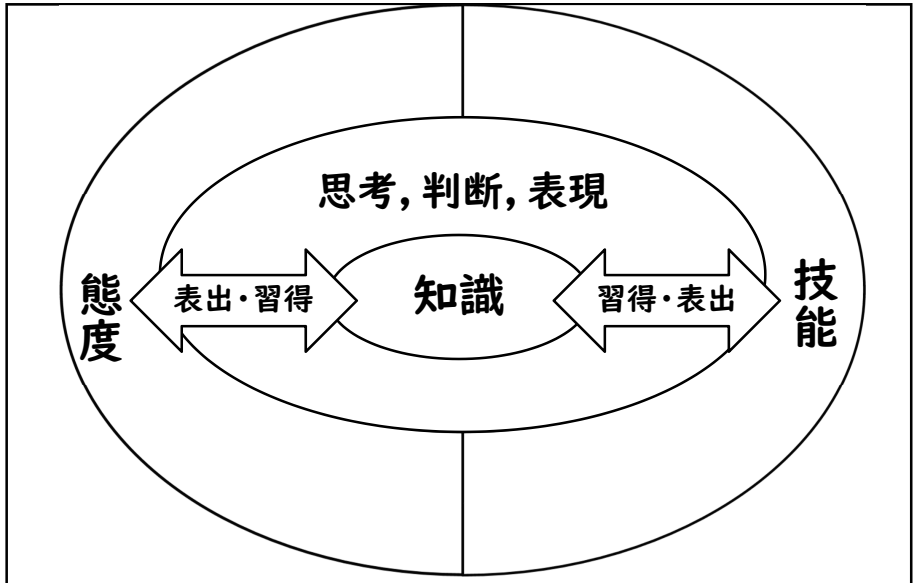
A　仲間の考えを否定せず，一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認める発言や仲間への関わりなど，授業での安定した態度の出現が見られる。

B　一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認める発言，主体的な姿勢や意欲が観察できる。

C　一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めるなどの行動が見られない。

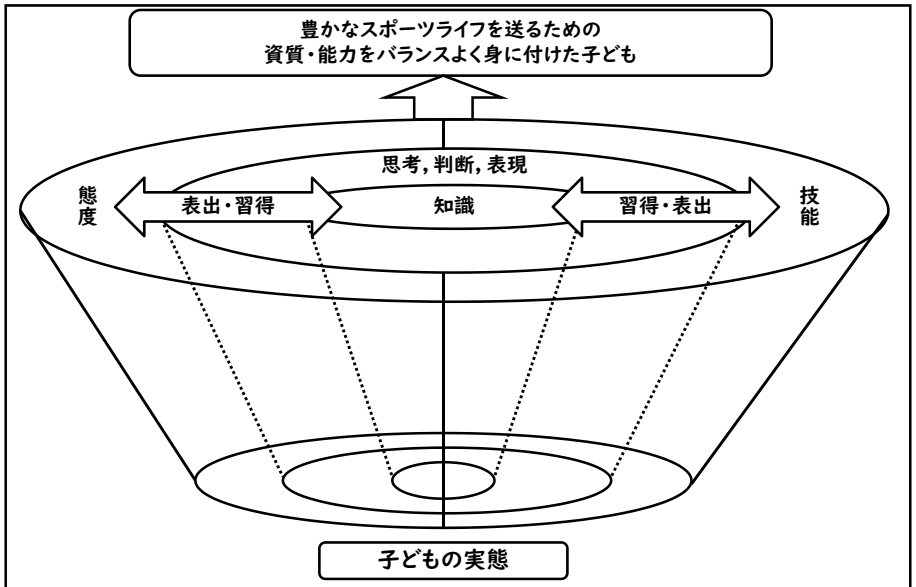
→皆が楽しんだり達成感を味わったりするためには，工夫や調整が求められる場合があることを再度説明し，行動を促す。





体育分野・科目における資質・能力の関係図

中村剛・福田隆太郎・杉野一昭（2012）運動や健康に関する考えを広げ深める体育科・保健体育科学習指導
平成23年度福岡県体育研究所長期派遣研究報告書：Ⅰを一部修正



体育で目指す子どもの姿

中村剛・福田隆太郎・杉野一昭（2012）運動や健康に関する考えを広げ深める体育科・保健体育科学習指導
平成23年度福岡県体育研究所長期派遣研究報告書：Ⅰを一部修正

学びに向かう力，人間性等 と 思考力，判断力，表現力等

【参画】作戦などを話し合う場面で，合意形成に貢献しようとすること

チームや自己の課題の解決に向けた練習方法や作戦について話し合う場面で，対立意見がでた場合でも，仲間を尊重し相手の感情に配慮しながら発言したり，提案者の発言に同意を示したりして建設な話合いを進めようとすることを示している。そのため，合意形成に貢献しようとすることは，相互の信頼関係を深めることにつながるとともに，自己形成に役立つことを理解し，取り組めるようにする。

仲間と話し合う場面で，提示された参加の仕方に当てはめ，チームへの関わり方を見付けること

なぜ，
そうしなかればならないのか

意味，理由

そうすると
どんな
いいことが
あるのか

意義，価値

どの場面で
どのように

思考，判断，表現

知識と態度の関連ワークショップ

「九州体育・保健体育ネットワーク研究会」で
行っているワークショップを一部修正して

高等学校 第2学年 球技・ネット型（バドミントン）
解説の表記（参画）

合意形成に貢献しようとするとは，チームや自己の課題の解決に向けた練習方法や作戦について話し合う場面で，対立意見が出た場合でも，仲間を尊重し相手の感情に配慮しながら発言したり，提案者の発言に同意を示したりして建設的な話合いを進めようとすることを示している。そのため，合意形成に貢献しようとすることは，相互の信頼関係を深めることにつながるとともに，自己形成に役立つことを理解し，取り組めるようにする。

生徒に理解させたい意味・意義

合意形成に貢献しようとすることは

〇相互の信頼関係を深めることにつながる

〇自己形成に役立つ

生徒が具体的に行うこと

〇練習方法や作戦について話し合う

〇相手の感情に配慮しながら発言する
・批判はしてもよいが否定はしない

〇建設的な話合いを進める
・誰かが発言したら頷く
・意見を深堀する

教師による場面，方法，発問等の計画

場面
・ゲーム前の話し合い
・ゲーム後の話し合い
・チーム活動

方法
・話し合いの進め方のポイント，マナーをまとめた資料
・ICT（ジャムボード，ロイロノート）
・ホワイトボード
・付箋

発問
・他者の発言に対してどんなリアクションをしたらその人は気持ちよく話し合いを進められるかな

・押し付けではなく提案するための発言ってどのような発言の仕方かな

・建設的に話し合うことは お互いの人間関係にどのような影響があると考えるか

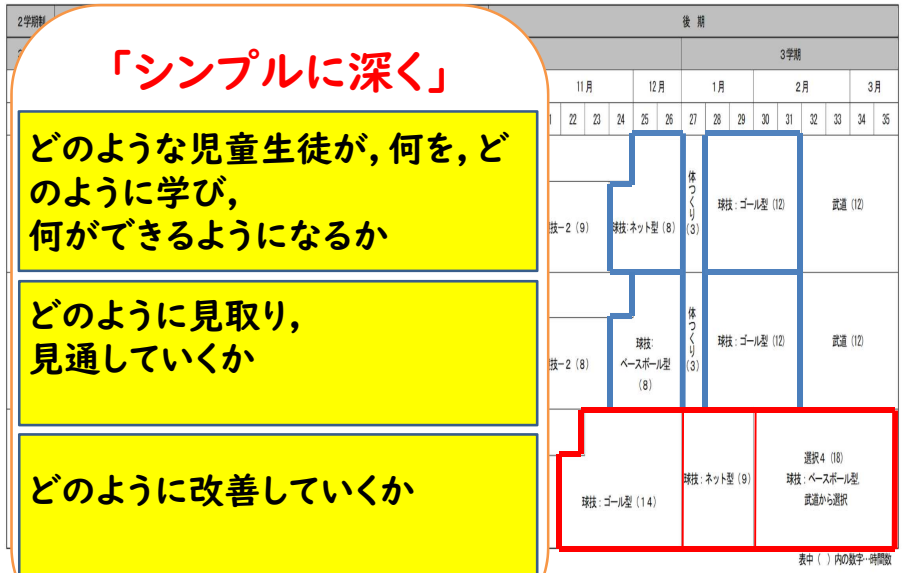
まとめ

「シンプルに深く」

どのような児童生徒が，何を，どのように学び，
何ができるようになるか

どのように見取り，
見通していくか

どのように改善していくか



する資料 より
rps%3A%2F%2Fwww.dainippon-
K.docx&wdOrigin=BROWSELINK

参考文献

福岡県体育研究所，体研データベース 学習指導案作成のポイント（高等学校：新学習指導要領版），
www.taiikukenkyusho.ed.jp/newpage5.html#データベース，（参照日，2021.09.15）.

国立教育政策研究所教育課程研究センター（2020）「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 保健体育，https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_mid_hokent.pdf（参照日，2020/04/20）.

宮田幸治（2021）D 水泳 7 第2学年 新たな泳法にチャレンジする指導と評価，佐藤豊（編）評価事例&評価規準例が満載！中学校保健体育新3観点の学習評価完全ガイドブック，明治図書：東京，66-71.

文部科学省（2017）中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編．東山書房：京都.

文部科学省（2018）高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編 体育編．東山書房：京都.

中村剛・福田隆太郎・杉野一昭（2012）運動や健康に関する考えを広げ深める体育科・保健体育科学習指導 平成23年度福岡県体育研究所長期派遣研究報告書.

佐藤豊（編）評価事例&評価規準例が満載！中学校保健体育新3観点の学習評価完全ガイドブック，明治図書：東京.

高橋修一・横嶋剛（2018）中学校学習指導要領 保健体育科改訂のポイント，独立行政法人教職員支援機構，
https://www.nits.go.jp/materials/youryou/files/030_001.pdf (参照日2018/12/20).

鳥取県教育委員会，中学校保健体育 1 教育課程実施上のポイント，
https://www.pref.tottori.lg.jp/secure/295490/taiiku.pdf (参照日2021.06.10).

参考文献

福岡教育大学附属小倉中学校（2021）文部科学省委託事業「これからの時代に求められる資質・能力を育むカリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」令和元年度～2年度 福岡教育大学附属小倉中学校 カリキュラム・マネジメントの手引き－資質・能力の育成に向けたリアルな学習デザイン実現の処方箋－，https://kokurajs.fukuoka-edu.ac.jp/news/knmfns0000000zdy-att/knmfns0000000zej.pdf（参照日2021/04/10）.
加藤雄一郎（2018）健康スポーツにおけるバイオメカニクスの面白さ：理数系の知識を活かして知的なスポーツ指導者を目指そう，東亜大学紀要，12：45-52.
国立教育政策研究所教育課程研究センター（2020）「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 保健体育，https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_mid_hokent.pdf（参照日，2020/04/20）.
文部科学省（2017）中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編．東山書房：京都.
文部科学省（2018）高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編 体育編．東山書房：京都.
高橋修一・横嶋剛（2018）中学校学習指導要領 保健体育科改訂のポイント，独立行政法人教職員支援機構，https://www.nits.go.jp/materials/youryou/files/030_001.pdf (参照日2018/12/20).
鳥取県教育委員会，中学校保健体育 1 教育課程実施上のポイント，https://www.pref.tottori.lg.jp/secure/295490/taiiku.pdf (参照日2021.06.10).
筒井茂喜・後藤幸弘（2010）児童を対象とした攻防相乱型シュートゲームの「課題ゲーム」開発と学習過程，兵庫教育大学教科教育学会紀要，23: 7-15.